

# 福祉文化通信

～well-beingへの道～

2007. 11.12 vol.61



編集委員  
安倍 大輔  
長岡 清貴  
馬場 博  
渡邊 誠

TEL&FAX 048(878)3793 ホームページアドレス <http://www.fukushibunka.jp/> メールアドレス [jmukyoku@fukushibunka.jp](mailto:jmukyoku@fukushibunka.jp)

来る11月17日(土)・18日(日)、北翔大学(江別市)及び北翔大学北方圏学術情報センター「ポルト」(札幌市)において、北海道大会が開催されます。大会実行委員長の相内眞子理事より、熱いメッセージ(下記)が届いておりますので、お読みいただき、一人でも多くの会員の方々に参加していただければと思います。よろしくお願ひいたします。

すでにお知らせしておりますが、この12月には、3つの地方ブロックにおいて、ブロック大会が開催されます。12月1日(土)には、関東ブロック神奈川大会が、手ヶ崎リハビリテーション専門学校を会場に行われます。9日(日)には、中国四国ブロック徳島大会が、徳島県名西郡石井町中央公民館及び石井小学校にて行われます。また16日(日)には、九州ブロック熊本大会が、総合ケアサポートセンター天寿園にて行われます。どれもさまざまな趣向を凝らし、地域の文化に密着した実証報告やイベントがありますので、お近くの方だけでなく、遠方からも足を運んでいただければと思います。

また東京でも11月23日に「日本社会福祉系学会連合事業シンポジウム」が開催されます。詳細は、別紙チラシをご参照下さい。

この秋は、各地で福祉文化のイベントが自白押しです。詳細はホームページ等でご確認下さい。また会員への情報伝達の手段として、メルマガの発行も始まります。ぜひ「おぼろ」でも是非「おぼろ」をご覧ください。

## 福祉の再生と未来を語ろう！

### 北海道大会で会いましょう



日本福祉文化学会  
第18回全国大会  
北海道大会の開催に向けて

実行委員長・相内 眞子 (北翔大学)



テーマがきらりと光る、記念講演、福祉文化交流分科会が期待できそうです。

来る11月17、18日の2日間、にわたり、日本福祉文化学会第18回全国大会が、北海道江別市の北翔大学と札幌市の大学付設「北方圏学術情報センター「ポルト」」の2会場で開催されます。2007年は、本学人間福祉学部開設10周年にあたり、さらに4月より校名を浅井学園大学から北翔大学に改称した記念の年であることから、学会のご理解とご厚意の下、この全国大会を大挙新名称及び学部開設10周年記念行事との共同開催事業として位置づけ、実行委員会を組織し準備してまいりました。

大会1日目の17日は、例年この時期に開催する学部の卒業生研修会を併せて実施し、卒業生が大会に参加し、視野を広め、洞察力を深めるチャンスとなるよう工夫をいたしました。「福祉の再生と未来を語ろう」地域・関わり・環境の持つ力から福祉文化を考え「一」と高らかに謳った大会

表、全国から注目を集める「浦河べてるの家」の特別講演、シンポジウム「福祉のまちづくりの未来―福祉のまちづくりコンクールの10年から学ぶ―」と、北海道ならではのプログラムを用意いたしました。

この他に、17日午前中には、「北海道開拓記念館」へのオブショナル・ツアーがあり、同日夜の懇親会では道産食材中心のメニューをお楽しみいただく予定です。「学会+α」も考えております。

昨年、「昨年の全国大会に比べ参加者が少ないのがやや残念です。今からでもお申込みいただけますし、当日参加も受け付けておりますので、ご都合のつく方は是非ご参加ください。この時期、北海道は冬に入りかけている頃。本州からご来道の皆さまは暖かい服装でお越し下さい。実行委員一同、お目にかかるのを楽しみにお待ちしております。

## 福祉文化人インタビュー



福島美佐子さん

(新潟市福祉の里  
生活支援員)

生活支援員

Q. 福祉の里は卓球療法の活動が盛んなことで知られ、福島さんは昨年の埼玉大会の分科会で話題提供をして下さいましたね。

A. 福祉の里は、児童・障害者・高齢者福祉の複合施設で、10数年前の開設当初から卓球を取り入れているんです。ボランティアの協力が大きいのですが、介護職、ソーシャルワーカー、作業療法士、理学療法士など複数の職種の人が関わっています。

Q. 卓球療法は大分や岐阜でも有名な施設がありますが、福祉の里の特徴はどのような点でしょうか。

A. 様々な障害、様々な年代の人が交流しているところだと思います。もともとデイサービス

は障害者と高齢者の混合ですし、そこに利用者のお孫さんが手伝いに来ることもあります。

Q. ボランティアや対象者という分け隔てはあまりなく、身体に障害がある方のほか、知的、精神障害の方もおられ、子どもからお年寄りまで年齢の幅もとても広がっています。

Q. お孫さんが加わったり、知的障害の方が加わったという点も特徴ですね。

A. ボランティアが同じ建物の児童館へ教えに行くようにもなりました。

Q. ボランティアの役割は重要ですね。

A. 相手に合わせてコントロールするには技術もあるので、自立的に練習も重ねて下さっています。よくして下さいなので、デパートに来るのが大好きになった利用者もおられます。

Q. 特に印象的だった利用者ほどのような方でしょうか。

A. 申す利用だった人が立って打てるようになった例や、砂浜を歩けるようになった方ですね。

Q. やはり楽しくリハビリできている点が良いのでしょうかね。さて、次に福島さん自身のご経歴やこれからの希望についてお聞ねします。

A. 当初は児童福祉に関わり、後に障害者福祉の部署へ異動しました。元々卓球は温泉卓球程度だったので、福祉の里へ異動してからは関わりが深まりました。

Q. ボランティアの調整や施設・職種間の調整など、少しずつの積み上げがあったのではと幸いです。

A. ここで活動したボランティアが他の施設でも活動を始める例が出ています。来年3月の定年後も、そういうコーディネーター役はずっと続けていきたいと考えています。

Q. 卓球療法のほかに関わっている文化活動はありますか？

A. 難聴の娘が、佐藤慶子主宰のメテアワークの活動を通じて、音楽に興味を持つようになりましたので、聴覚障害者と音楽についても関心があります。

Q. 本学会へ期待することはどのような点でしょうか？

A. 様々な職種の方がいて、ユニークな活動ががんばり続けている人と出会え、元気を分けてもらえるので魅力的です。

Q. 学会でどのような活動をしたいとお考えでしょうか？

A. 知的障害の方の文化を広げ、皆が生きていて良かったと思えるようなことを、一緒に探していきたいと考えています。

## 緊急報告！

## 新潟県中越沖地震からの復興に向けて

評議員の間矢秀幸さん（新潟県柏崎市在住）から中越沖地震後の対応についてのレポートが届きました。「災害と福祉文化」を考える上で大変貴重なそのレポートを、ここに掲載いたします。

7月16日、前日の地区運動会の疲れがとれぬまま、目をさまし東京出張の復命書をまとめようと少々遅めの起床。自宅の部屋にてパソコンに打ち込んでいたところ、遠くから「ゴゴ、ゴゴ」との地鳴りが聞こえ、段々とその音が近づくにつれて揺れが始まり、横ゆれ縦ゆれの激しさが増しました。前回の中越地震の際も自宅部屋にて体験しておりましたが、今回の地震はまったく立ち上がることもできず、机につかまるのみ。部屋中の本棚が倒れ、テレビが飛び落ち、タンスも揺れだし、あふなく下敷きに。家族の無事を確認するため「大丈夫かー」と声を張り上げるのが精一杯の状況でした。地震もおさまり、前回の大きな余震も経験したので、家族全員で屋外へ避難。時計を確認したところ午前10時13

分。すると防災無線の第一報が入り「津波注意報発令、海岸部の方は津波に注意して下さい」との放送。「今回は揺れがはげしかったが、さほど被害はなかったのかな」と思いながらも、研修出向先の市役所へ登庁せねばならないと思い、車で市街地へ向かっていくと、だんだんと被害の大きさがわかってきました。車の倒壊、家屋の倒壊、道路の陥没と隆起、信号停止、がけ崩れ、なんと被害の大きいところか、市役所近辺の中心部でも家が倒壊し、道路をふさぐ状況でした。私が勤務する企画政策課は災害時のマスコミ等報道担当ということで、災害対策本部につめての対応。夕方になってようやく救援物資と食料が届き、市内の避難所への配送がはじまり、私も自家用車での配送を志願し、3ヶ所を担当。道路事情も悪く、3往復して帰庁したのが午前零時。早速次の指令が入り、応援の県市職員を避難所へ案内するため、送迎バスに同乗。10ヶ所を回りようやく市役所へ戻ったのが朝4時でありました。

(次号へ続く)

### 第3回 福祉文化実践学会賞 について

先日開かれ  
ました理事会  
において、第  
3回福祉文化  
実践学会賞の  
受賞者が、  
「わかりやす  
いけいかくづ  
くりいいんかい（代表・小林勇  
輔）」に決定しました。

選考については、「福祉文化  
実践学会賞選考規定」に基づき、

5名の委員からなる選考委員会  
が、厳正なる審査を行い、候補  
者を選定、理事会の場で決定い  
たしました。

この取り組みは東京都国立市  
において策定された地域保健福  
祉計画を、誰もがわかりやすい  
ものに書き換えるために、知的  
に障害のある当事者が取り組ん  
だという、全国でも初めての試  
みです。

授賞式は来る11月18日の北海

道大会の閉会セレモニーの場で  
行われます。代表の小林勇輔さ  
んから、この取り組みについて  
紹介していただく予定です。

なお活動の詳細につきましては  
は、「福祉文化実践報告集  
vol.2」所収の遠藤美貴  
「東京都国立市「わかりやすい  
けいかくづくりいいんかい」が  
発信するもの」地域保健福祉計  
画わかりやすい版の作成を通し  
て」をご覧下さい。

#### \*メールマガジンを発行します\*

皆様には「福祉文化通信」や  
ホームページで学会活動をお知  
らせしていますが、通信発行サ  
イクル（3ヶ月間）を補い、さ  
らに学会の活動や情報を迅速に  
お伝えするため、メールマガジ  
ン（パソコンのみへの送信）を  
発行することになりました。詳  
細については今号通信に同封し  
ているチラシをご覧ください。

## 「福祉文化事典」の企画・編集案は進行中

日比野正己（「福祉文化事典」編集委員長）

学会20周年となる2009年  
刊行をめざし、「福祉文化事典」  
の企画が進行中です。「善ヶ瀬  
会長の構想を踏まえて、昨年来、  
4回の編集委員会を重ねて、現  
在、次のような企画案をまとめ  
つつあります。

#### ○刊行の目的

- ・日本福祉文化学会20周年  
記念事業
- ・「福祉文化」に関する総合  
書（図書館向け兼ねる）
- ・会員多数の参加による学会  
の活性化

#### ○本書の特徴

- ・日本初・世界初の「福祉文  
化事典」
- ・分かる・楽しい・美しい事  
典（事典そのものが福祉文  
化作品、カラー）
- ・高校生から専門家まで役に  
立つ
- ・豊富な実践と理論の融合に  
よる展開
- ・最新の情報源満載

#### ○本書の構成案

- ・はじめに 福祉文化とは
- 第1部 ビジューアルに学ぶ福  
祉文化（できれば図解でカ

#### ラー）

- \*第1章 歴史から学ぶ福  
祉文化
- \*第2章 実践から学ぶ福  
祉文化
- 第2部 福祉文化の実践と創  
造
- \*第1章 人間のための福  
祉文化（教育と福祉）
- \*第2章 福祉文化の豊か  
な創造
- \*第3章 地域で育む福祉  
文化
- 第3部 福祉文化理念の普遍  
化と未来
- \*第1章 福祉文化理念の  
普遍化
- \*第2章 福祉文化の未来

#### 資料

- 体裁・発行他  
体裁は、A4判かA5判で見

#### ○予定

- 2007年11月 北海道大会  
総会で報告し、その後、執  
筆者を募集。
- 2008年3月 構成案、執  
筆者決定。
- 10月 原稿締切  
（各編集委員で集約）
- 2009年5月 印刷、完成

#### ○編集委員会

- 日比野 正己（委員長）、河  
東田 博、坂本 道子、多田  
千尋、水山 誠、馬場 清  
（事務局）、渡邊 豊（事務局）

#### 書籍紹介

金子 尚

「少子化する高齢社会」

NHKブックス（2008）

近年、毎年のように少子化の  
進行が問題として取り上げられ  
ています。それまであまり少子  
化対策に積極的ではなかった政  
府も、ようやく重い腰を上げ少  
子化対策に取り組み姿勢を見せ  
るようになりました。また一方  
で、高齢社会に向かっていて日  
本の社会のあり方について、特  
に社会保障制度を中心とした議  
論も活発になされています。

しかしこうした少子化の問題  
と高齢社会の問題に正面から取  
り組まれることは決して多くな  
いように思われます。

そのような意味では、本書は  
少子化と高齢社会を扱った意欲  
的かつ刺激的な著作だと思いま  
す。例えば「第一章 適正人口  
社会とは何か」は今後議論され  
るべき論点を大いに含んでいる  
と思います。こうした理論的問  
題の一方で、「第二章 「高齢  
者神話」を破る高齢者たち」で  
は、人と人とのストリンクス  
（繋がり）を広めていくことで、  
社会全体をストリンクス（強く）  
にしていく、という興味深い提  
案がされています。

## インフォメーション

日本社会福祉系学会連合事業  
第2回シンポジウム

主催：日本社会福祉系学会連  
合（会長：古川孝順）

日時：2007年11月23日  
（金）13時～15時

会場：東洋大学白山キャンパ  
ス6号館2階 6214教  
室

シンポジスト

\*日本福祉文化学会

多田千尋（日本福祉文化学  
会副会長・芸術教育研究  
所）

馬場清（日本福祉文化学会  
事務局長・浦和大学）

\*社会事業史学会

宇都美子（専修大学）

\*日本仏教社会福祉学会

石川到寛（大正大学）

参加費：無料（直接会場にお  
越し下さい）

事務局：日本社会福祉学会事  
務局

TEL：03-335617

824

TEL：03-335617

TEL：03-335617

820

TEL：03-335617

TEL：03-335617

TEL：03-335617

820

E-mail: jssw@jssw-net.ac.jp

\*インフォメーション記事については、学会ホームページにも詳しい案内がでています。

関東ブロックセミナー  
わたし流の福祉文化―その実践か  
ら人生を学ぶ

日時：12月1日（土）午後2時  
～5時30分

場所：茗ヶ崎リハビリテーショ  
ン専門学校

プログラム

14：00～15：40 座談会 今  
が旬・神奈川のユニーク  
な活動

座長 金井直子氏（関東ブロ  
ック柳奈川支部長、社会福  
祉士）

15：50～17：30 トークセッ  
ション

オーブニングコンサート

話題提供者

白瀬宏子氏（NPO法人つくし  
保育園職員、NPO法人びー  
のびーの理事）

長濱嘉子氏（特養ニューバード  
施設長、社会福祉士）

司会・長岡晃一氏（茗ヶ崎リハ  
ビリテーション専門学校専任  
教員）

参加費：無料、定員50名（申込  
先着順）

お問い合わせ・参加申し込み  
TEL：090-1519410

846 長岡まで

※当日、会員対象の懇親会も行  
います（懇親会のみ参加も  
可）

18：10～20：10 会場（5つの  
制貸）（参加費：3000円）

第9回中国・四国ブロック  
徳島大会

日時：12月9日（日）9：30～  
16：30

会場：石井町中央公民館

主催：中国・四国ブロック  
後援：石井町、他2団体

プログラム（受付は9：00よ  
り）

9：30 開会式

9：45 プロローグ（鴨島博  
昭太鼓）

10：15 記念講演 テーマ  
「つながり」講師 横石知  
二（株式会社いろどり代表  
取締役副社長）

11：30 休憩・アトラクショ  
ン（阿波踊り観覧）

13：00 分科会 第4分科会  
のみ11時より開始

15：15 シンポジウム テー  
マ「私たちを支えている家  
族、友人、知人、職場の人  
たち、支援者……」

16：15 閉会式（16：30終  
了）

参加費：無料  
昼食：無料提供いたします（特  
産物いろいろ）  
申し込み：参加申し込み用紙を  
11月30日（金）までに大会事  
務局にお送りください。  
申し込み先：  
\*FAX：088-675-11  
660  
\*郵送：〒779-1323 4  
徳島県名西郡石井町石井字白  
鳥73-1 社会福祉法人カリ  
ヨン れもん内 日本福祉文  
化学会第9回中・四国ブロッ  
ク徳島大会事務局 松前勝洋  
まで  
問い合わせ：TEL088-16  
74-1333  
E-mail: karon@karon.or.jp  
れもん内（松前、藤井まで）

第2回九州ブロック熊本大会  
有明海・福祉文化サミット  
in 天寿園

日時：2007年12月16日（日）  
午後1時から午後5時

会場：社会福祉法人寿泉会総合  
ケアサポートセンター天寿園  
（熊本県）

参加費：資料代 500円

主催：日本福祉文化学会九州ブ  
ロック

日本福祉文化学会九州ブロッ  
ク熊本大会実行委員会

プログラム（予定）

13：00 開会行事

13：10 有明海・福祉文化サ  
ミット in 天寿園

コーディネーター：日比野正巳  
（長崎純心大学現代福祉学科  
教授）

サミットメンバー  
米満直志：社会福祉法人寿泉  
会総合ケアサポートセン  
ター天寿園施設長

小関みどり：有限会社グルー  
プホームふるまの家の家一城  
下代表

志賀俊紀：社会福祉法人ほか  
にわ共和国実行施設長

落合明美：財団法人高齢者住  
宅財団開発調査部開発情  
報課長（財団ニュース）

★途中、休憩、ビデオ上映あり

16：50 閉会行事（歌、大会  
宣言）

申し込み：長崎純心大学日比野  
研究室宛（FAX 095-1  
849-1189）

## 新学会員（10月19日現在）

## 〈個人会員〉

・茂木 高利  
・松浦 西和  
・仙山 典要江

兵庫大学短期大学部 保育科

## 〈学生会員〉

・堀 清和  
・金澤 有子

関西福祉科学大学  
聖学院大学大学院